

2010年8月27日

会員各位

日本ファイナンス学会  
「研究観望会」幹事 本多 俊毅

### 第18回研究観望会開催のお知らせ

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、日本ファイナンス学会第18回研究観望会を下記の要領により開催することといたしました。今回は「企業間信用の実態と機能—コーポレートファイナンスの視点から」をテーマに、裏面要旨のとおり、たいへん興味深い報告がなされる予定ですので、ふるってご参加たまわりますようお願い申し上げます。ご出欠につき、同封の申込書（葉書／Fax）にて9月21日（火）までにご返事いただければ幸いです。ホームページからのお申込も可能ですのでご利用下さい(<http://www.nfa-net.jp>)。なお、参加者多数の場合には、先着順とさせていただきます。

また、研究観望会では、別紙要領のとおり、報告者を募集しております。自薦他薦ふるってご応募くださいますようお願い申し上げます。とりいそぎ、ご案内する次第です。

敬具

#### 記

テーマ：「企業間信用の実態と機能—コーポレートファイナンスの視点から」

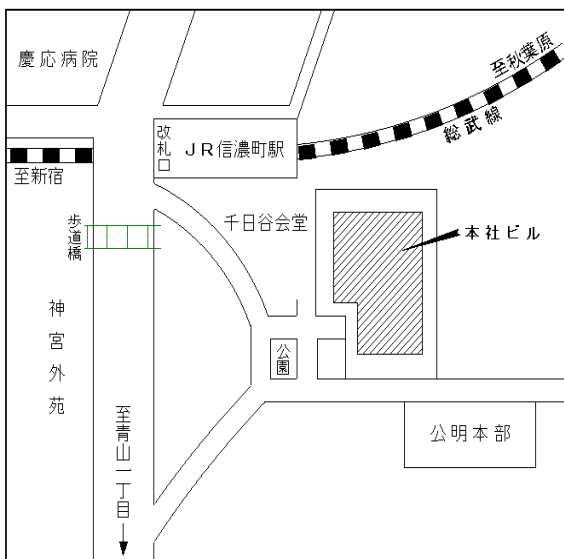
報告者：内田 浩史 氏（神戸大学大学院経営学研究科）

日時：2010年10月1日（金）午後6時30分より

会場：（社）金融財政事情研究会 2F 第1会議室（下図参照）

東京都新宿区南元町19（〒160-8519）Tel：03(3354)2377

JR「信濃町」徒歩5分



研究観望会のお問合せ先：

幹事 本多 俊毅

（一橋大学国際企業戦略研究科准教授）

Tel：03(4212)3100

E-mail：thonda@ics.hit-u.ac.jp

申込先：日本ファイナンス学会事務局  
（阿部・小林(奈)）

東京都新宿区南元町19（〒160-8519）

Tel：03(3354)2377

Fax：03(3359)7947

E-mail：honbu@nfa-net.jp

URL：http://www.nfa-net.jp

以上

日本ファイナンス学会  
第18回研究観望会

「企業間信用の実態と機能－コーポレートファイナンスの視点から」

神戸大学大学院経営学研究科  
准教授 内田 浩史

報告の概要：

企業間の取引においては信用取引(いわゆる「掛け」取引)が行われることが多い。物やサービスを売買する際に支払を掛けにすることは、支払代金分の資金を売手が買手に対して貸し付けているのと同じであり、実質的に売手と買手が貸借を行っているのに他ならない。こうした貸借は「企業間信用」と呼ばれ、売手にとっては売掛金・受取手形、買手にとっては買掛金・支払手形という形で資産あるいは負債として認識されることになる。

日本において、企業間信用は企業の資産側(売手側)負債側(買手側)いずれにおいても1970年代後半から一貫して対資産比15%以上を占めており(財務省法人企業統計)、また中小企業の主要仕入先に対する支払のうち納入時点で即支払うと答えた企業は僅か2.7%に過ぎない(植杉他2009)。海外においても企業間信用は重要であり、たとえばアメリカの中小企業の買掛債務の資産に対する比率は15.78%、買掛債務の資産に対する比率は20%、仕入れのうち掛けで支払った割合は47.73%である(Berger and Udell 1998, Giannetti, Burkart, and Ellingsen 2008)。

企業間信用は、企業によって、あるいは業種によって、支払い条件(たとえば手形を用いるのか振込みを用いるのか)、支払いまでの期間(いつまでに支払うのか)などが異なるといわれている。しかし、どのような条件がどの程度用いられているのか、実態は必ずしも明らかではない。また、そもそもなぜ企業間信用が用いられるのかという問いに答えること自体、容易ではない。資金を調達したければ、資金の貸付を専門としている金融機関から借りて即金で支払うことも可能なはずである。なぜ専門的な貸手ではなく、財やサービスの売手から信用を受ける必要があるのだろうか。

こうした疑問を念頭に置き、本観望会では企業間信用の実態と企業間信用が用いられる理由についての展望を行う。具体的には、利用可能なデータから明らかになった実態を示した上で、最新の研究のサーベイを行う。その中では、企業や業種に応じて企業間信用の条件は異なるのか、手形の利用は減少してきているのか、企業間信用の金利は高いのか、といったトピックスについても触れる予定である。

## 日本ファイナンス学会「研究観望会」

### 報告者募集要領

研究観望会運営委員会

代表幹事 本多 俊毅

研究観望会は、世界のファイナンス研究の最新動向をテーマ別に展望するもので、各トピックに関する最新の成果をサーベイした報告を通じて、会員各位の知識・情報の整理に役立てるとともに、会員の研究活動の促進に寄与することを目的としたものです。この目的にそった報告者を下記要領にて募集いたしますので、ふるってご応募くださいますようお願い申し上げます。なお、報告内容については、幅広く、理論、方法論、実証研究、制度の現状と展望等々にいたるまで歓迎いたします。

とりわけ、若手研究者を歓迎し、研究奨励的な運営を企図しております。必要に応じた交通費、宿泊費を支給するとともに、報告に対する研究奨励金も支給いたします。

ご応募いただきますと、研究観望会運営委員会が合議のうえ諾否を決め、結果を応募者個人に直接お知らせいたします。

ご応募にあたっては、研究観望会の円滑な運営のため、以下の必要書類を各3部ご用意のうえ、日本ファイナンス学会事務局までお送りください。

- (1)報告論文のテーマと章建ての計画
- (2)各章各節の詳細な要旨
- (3)報告分野に関する参考文献表
- (4)報告者の略歴とこれまでの研究成果
- (5)報告分野と関連した報告者の論文等著作物がある場合は、そのコピー。

なお、完成論文がある場合は(1)~(3)に代替できます。

#### 応募先／問合せ先

日本ファイナンス学会 研究観望会

Tel:03(3354)2377 Fax:03(3359)7947

E-mail:honbu@nfa-net.jp

〒160-8519 東京都新宿区南元町 19

(社)金融財政事情研究会 内